

生産性向上人材育成支援センターでは、 中小企業におけるDX人材の育成

を支援しています！

経済通産省のDXレポートによれば、95%の企業はDX（デジタルトランスフォーメーション）に全く取り組んでいないか、取り組み始めた段階であり、全体的な危機感の共有や意識改革のような段階に至っていないとされています。また、DXの定義は「データとデジタル技術を活用して、ビジネスモデルを変革するとともに業務そのものや、組織、プロセス、企業文化、風土を変革し、競争上の優位性を確立すること」としていますが、それらを推進するにはDX人材の育成が不可欠です。

生産性向上人材育成センターでは、令和4年度から生産性向上訓練カリキュラムモデルのうち「46コースのDX対応コース」を選定・拡充し、中小企業等でDX活動をけん引する“DX人材の育成”を支援します。

DX対応コースの概要

DX対応コースでは、既存のカリキュラムモデルを3つの課題別に分類しており、それぞれの課題解決に効果的な訓練コースをご提案しています。

- 訓練で習得できる要素例
- ・デジタル化による業務改善
 - ・新しい生活様式を踏まえた取組み
 - ・新たな業務プロセスの導入や改善
 - ・ビジネスモデルに関する取組み

- 受講対象者 事業主の指示を受けた在職者
- 訓練日数 概ね1～5日（4～30時間）

- 受講料（1人あたり・税込） 2,200円～6,600円

- 訓練会場 自社会議室等を訓練会場とすることが可能です（企業に講師を派遣します）



■令和4年度ポリテクセンター山口では、DX対応に該当する11コースのオープンコース開催を予定しています

○ DXの導入を考えているが導入手順を知りたい

- ・DXで自社の目指す方向性を描きたい
- ・DXの推進に必要な社内体制を構築したい
- ・社内各部署のデータを共有し有効活用したい
- ・ITベンダーとの関係性を築きたい
- ・販売、受注データから発注、生産、販売までの最適化を図りたい

内容
コース

■「ビジネスモデルの課題」への対応

- ・DX（デジタルトランスフォーメーション）の導入
- ・DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進
- ・データ活用で進める業務連携
- ・ベンダーマネジメント力の向上
- ・SCMの現状と将来展望
- ・IOTを活用したビジネスモデル 他全 9 コース

○ 生産活動にスピードと柔軟性をもたせたい

- ・自社でシステム開発できる知識を習得したい
- ・データに基づくマーケティングを強化したい
- ・DXで何ができるのか具体的な方策のヒントを得たい
- ・顧客データ分析を通して顧客満足度を向上させるための課題を抽出したい
- ・システム構築に必要な知識を学習したい

内容
コース

■「業務プロセスの課題」への対応

- ・在庫管理システムの導入
- ・卸売業・サービス業の販売戦略
- ・AI(人口知能) 活用
- ・社内ネットワークに役立つ管理手法
- ・マーケティング志向の営業活動の分析と改善
- ・IT新技術による業務改善 他全25コース

○ 自社業務に最適なITツールを選定したい

- ・自社がDXを推進するための具体的方策を学びたい
- ・自社の業務に活かせるIT技術のメリット・デメリットを知りたい
- ・定型事務処理を自動化して業務の効率化を行いたい
- ・テレワーク、オンライン営業を推進し、リモートワークの技術を学び、業務効率を図りたい

内容
コース

■「デジタル化と新たな生活様式」の課題への対応

- ・ITツールを活用した業務改善
- ・企業内でIT活用を推進するための必要な技術理解
- ・RPAを活用した業務効率化・コスト削減
- ・テレワークを活用した業務効率化
- ・データサイエンス入門
- ・オンライン営業技術 他全12コース

※予算に限りがありますので、ご希望に添えない場合があります。 ※訓練コースの設定には一定の条件があります。
※相談内容によっては、少人数からでも受講できるオープンコースのご利用を提案する場合があります。

生産性向上支援訓練 オーダーコースのご案内

生産性向上支援訓練とは、
**企業の生産性を向上させるために必要な知識や
スキルを習得するための在職者向けの職業訓練です。**

企業の課題、ご要望に応じて企業毎に実施する**オーダーコース訓練**と、お一人からでも受講可能な**オープンコース訓練**（令和4年度48コースを設定）の二通りがあります。

※受講対象者：企業（事業主）から受講指示を受けた従業員

- オーダーコース** 企業の課題、ニーズに合わせてお選びいただいたカリキュラムをカスタマイズし訓練時間、日程をご要望に応じてオーダーメイドで実施します。
- オープンコース** 「まずは試しに1～2名の従業員に受講させたい」といった場合にお勧めです。令和4年度オープンコースについてはポリテクセンター山口HPで公開しております。
URL：<https://www3.jeet.go.jp/yamaguchi/poly/seisan/index.html>

○生産性向上支援訓練オーダーコースのポイント

①訓練時間は6時間から設定できます！

訓練時間は6～30時間の範囲内で、ご要望にあわせて設定できます。

※「IT業務改善」に関するコースは4～30時間の範囲内

②ご希望の訓練会場・日程の設定が可能です。

お客様の会議室等で受講ができ、土日の訓練や、一日あたりの訓練時間もお相談ください。

※講師の都合により訓練時間・日程に制約がある場合があります。

③少人数(原則6人以上)にも対応可能です。

お客様のニーズに応じて6人の少人数の定員も設定可能です。

④受講しやすい受講料…受講料は2,200円(税込)から！！

訓練時間、受講コースに応じて、1人あたり2,200円(税込)～6,600円(税込)です。

※一企業当たりの利用は年間6コースまでとさせていただきます。

⑤オーダー訓練はオンラインでの受講も対応可能です。

一部のカリキュラムにおいてオンライン方式での訓練実施が可能です。

その他：人材開発助成金を利用して経費及び賃金の助成を受けることができます。（助成金の受給には、10時間以上の訓練であること及び、一定の要件を満たす必要があります）詳しくは山口労働局職業対策課へご相談ください。



独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
Japan Organization for Employment of the Elderly, Persons with Disabilities and Job Seekers

ポリテクセンター山口 生産性向上人材育成支援センター

〒753-0861 山口市矢原1284-1

TEL 083-922-1958 FAX 083-932-1583

URL <https://www3.jeet.go.jp/yamaguchi/poly/>

ポリテクセンター山口



○ご相談から訓練受講までの流れ

ご 相 談

- まずは、ポリテクセンター山口へご相談ください。
- その後、打ち合わせに向けた日程調整等を行います。
(ご相談から訓練を実施するまでに約2ヶ月の期間が必要になります。)

プラン作成に 向けた打合せ

- 相談は企業訪問等により行います。
(打合せ内容例)
人材育成、課題、ニーズに関するヒアリング・カリキュラム内容の説明等

利用確認書の提出 訓練コースの コーディネート

- 訓練内容(コース名)、実施時期、受講予定人数、訓練場所が決定次第「**利用に関わる確認書**」(訓練申込書)を提出いただきます。
訓練実施は専門的なノウハウを有する民間機関等の講師に委託します。
- 講師を交えた事前打ち合わせを行います。(ニーズに応じてカスタマイズ)

受講申込 受講料のお支払い

- 所定の期日までに受講申込書を提出し、受講者を確定させていただきます。
- 受講日の1週間前までに受講料をお振り込みください。
※期限内に受講料の支払いがない場合は訓練を受講することができません。

訓練の受講

- お客様(事業主様)にご用意いただいた会場で訓練を実施します。
- 当センターが訓練の実施状況を確認します。
- 訓練終了後に受講者アンケートを実施します。
- 訓練終了後、2～3か月後に事業主アンケートを実施します。

○訓練コースについて(125コースのカリキュラムモデル)

- 生産性や品質管理について学びたい
- 流通や物流の仕組みを学びたい
- RPAを活用して業務を自動化したい
- テレワークを導入して業務を効率化したい

- A 生産・業務プロセスの改善**
- 生産管理、流通・物流、バックオフィス など
- 生産現場の問題解決
 - RPA/DX等の新技術導入
 - 業務プロセスを改善して効率性を高めたい など

- 従業員の仕事の効率化を促進したい
- リスクを低減させる方法を学びたい
- プロジェクトの管理手法を学びたい
- 個人のノウハウを社内で見える化したい

- B 横断的課題(組織マネジメント)**
- リスクマネジメント、組織力強化・業務改善 など
- 成果を上げる業務改善
 - 業務効率向上のための時間管理
 - リスクマネジメントによる損失防止対策 など

- 役割の変化への対応を学ばせたい
- ベテラン従業員に指導の手法を学ばせたい
- ベテラン従業員のOJTスキルを向上させたい
- 技術やノウハウを後輩従業員に継承させたい

- B 横断的課題(生涯キャリア形成)**
- 生涯キャリア形成・ノウハウの継承 など
- 後輩指導力の強化と中堅・ベテラン従業員の役割
 - 効果的なOJTを実施するための指導法 など

- 顧客満足度の向上を図りたい
- 消費者の動向を営業に活用したい
- インターネットを活用して販売促進を図りたい

- C 売上げ増加**
- 営業・販売、マーケティング、プロモーション など
- マーケティング志向の営業活動の分析と改善
 - 提案型営業手法
 - 提案型営業実践 など

- データ集計の作業を効率化したい
- マクロを使って定型業務を自動化したい
- 集客につながるHPを作成したい

- D IT業務改善**
- ネットワーク、データ活用、情報発信 など
- 表計算ソフトのマクロによる定型業務の自動化
 - 情報漏えいの原因と対策 など

※予算に限りがありますので、ご希望に添えない場合があります。 ※訓練コースの設定には一定の条件があります。
※相談内容によっては、少人数からでも受講できるオープンコースのご利用を提案する場合があります。

生産性向上人材育成支援センターでは、

70歳までの就業機会の確保に向けた従業員教育

を支援しています!

人手不足の深刻化や技術革新が進展する中、従業員を育成し、企業の労働生産性を高めていくことに加えて、**70歳までの就業機会の確保に向けて企業を支えるミドルシニア世代の役割の変化へ対応できる能力や、技能・ノウハウを継承する能力を育成することが重要です。**生産性向上人材育成センターでは、令和2年度から「ミドルシニアコース」を開始し、中高年齢層の従業員の「生涯キャリア形成」を支援しています。



ミドルシニアコースの概要

ミドルシニアコースでは、「**従業員のモチベーションの維持**」「**後輩への技能継承**」など、企業の定年延長や継続雇用等における課題の解決に効果的なカリキュラムをご用意しています。

- 受講対象者
45歳以上の従業員の方
(※45歳未満の方も受講は可能です)
- 訓練日数
概ね1～5日(6～30時間)
- 受講料(1人あたり・税込)
3,300円～6,600円
- 訓練会場
自社会議室等
(企業に講師を派遣します)

- ミドルシニア世代の従業員に、組織の中で**求められている役割**を理解させたい
- 従業員の経験を活かした**後輩従業員への指導方法**を学ばせたい

- 分野・コース**
- 役割の変化への対応
- 中堅・ベテラン従業員のためのキャリア形成
 - 後輩指導力の向上と中堅・ベテラン従業員の役割
 - フォローアップによる組織力の向上 など

- ミドルシニア世代の従業員が持つ**技術やノウハウ**を見える化したい
- 技能継承の指導者の「**教える**」スキルを向上させたい

- 分野・コース**
- 技能・ノウハウ継承
- 作業手順の作成によるノウハウの継承
 - 効果的なOJTを実施するための指導法
 - ノウハウの継承のための研修講師の育成 など

ミドルシニアコース 利用者の声

利用コース情報

- 訓練コース名:
「後輩指導力の向上と中堅・ベテラン従業員の役割」
- 訓練時間: 1日 6時間
- 受講者数: 7名

プロフィール

- 所在地: 山口県岩国市
- 従業員数: 12名
- 事業内容: 一般住宅、公共施設内外改修工事公共事業
鉄骨、橋梁の塗装工事及び各種防水工事事業

<訓練を利用した事業主の方の声: 代表取締役より>

Q 訓練を利用したきっかけについて、教えてください。

A 当社では週1回のミーティングで課題の発掘、人材育成教育に取り組んでいたところ、山口県中小企業団体中央会会報の折込チラシで、生産性向上支援訓練を知りました。以前より社内研修は行っていましたが、専門の方の指導を仰ぎ、真剣に取り組む社内環境作りを行い、職場の改善を進めていきたいと考えていました。

Q 訓練を利用した感想と、今後の抱負をお聞かせください。

A 訓練は事前の打ち合わせで社内の課題と、従業員の現場意見を取り入れた内容で行うことができました。講義は対話式に進められ、学びやすく、分かりやすい訓練で、今まで社内で教育してきたことを再認識し、さらに深めることができました。受講後はKY活動を含め、従業員1人1人が自らが考え行動するようになりました。今後は生産性向上支援訓練で得た取組であるコミュニケーション力を一層強化し、リーダーが活躍できるように取り組んでいきたいと考えています。

<訓練を受講した従業員の方の声>

Q 訓練を受講した感想と、今後の抱負をお聞かせください。

A リフォーム部では、公共事業中心に業務を行っていますが、現場作業と一緒に協力業者を増やしていきたい、見積書の作成時間を短縮したいなどの課題がありました。今回、訓練を受講して部下や協会社への指示の出し方、伝え方、手法が勉強になりました。受講後は、生産性向上支援訓練で学んだことで、相手の話を良く聞き、理解した上で行動するようになりました。

今後も、部下、協会社への伝え方、方法を考えて行動して取り組んでいきたいと考えています。



(株)ツルサキ 本社

